

送辞



暖かい春の訪れがますます感じられるようになった今日、東輝中学校から旅立たれる三年生の皆さん、「卒業おめでとう」ございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは今、この東輝中学校で過ごした三年間の思い出が蘇ってきているのではないのでしょうか。

先輩方はこの三年間、勉強や部活動、そして体育祭・文化祭などの行事でどんなことにもくじけず常に前向き、全力で取り組まれてきました。先輩方との思い出を振り返ってみると、私たちの背中をいつも優しく押して下さる温かい姿が思い出されます。私たちの心は、先輩方への感謝の気持ちでいっぱいです。

生徒会活動では、「クリエイティブらでつくる東輝中」というスローガンを掲げられました。

「みんなで新しいものをつくる」という思いが込められ、様々な活動に取り組みました。特に、「ひまわり里親プロジェクト」ではスローガンの通り、新しい活動としてPTAの方々と協力されました。

そういった先輩方の姿や思いを受け継ぎつつ、新しいことにも前向きに挑戦し、活動の輪を広げていきました。

先輩方にとって最後の体育祭は、応援や競技の練習で私たちのお手本となって盛り上げてくださいました。その姿は情熱に満ち溢れていました。

文化祭では、見応えのある完成度の高い劇を創り上げられました。どの劇も私たちに大きな感動を与えてくださいました。

また学年合唱や全校合唱も力強く歌い上げ、それぞれのパートが織りなす美しいハーモニーが、心に強く響きました。

今までの私たちは、先輩方の後ろをただついていけば、それで安心でしたが、明日からは自分自身で一歩ずつ進んでいかなければなりません。皆さんから学んだことをしっかりと胸に刻み、進んでいきます。これからは私たちが中心となり、この東輝中学校を皆さんが母校として胸を張れるような素晴らしい学校にしていきます。

この東輝中学校で培われた力を生かして、新たな進路先でもさらに飛躍されることを心より願っています。先輩方への感謝の気持ちとこれからのご活躍をお祈りし、お別れの言葉といたします。

令和二年三月十三日

在校生代表 矢野颯大



答辞



中学校に入学して三度目の冬景色もすっかり姿を変え、あたたかい四度目の春を迎えつつある今日、ただ今校長先生からのお祝いと激励の言葉をいただき、また来賓の方にも出席いただき、そして在校生の皆さんからの温かいお別れの言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今、世界で猛威をふるっている新型コロナウイルス。その影響で三月三日から突然の休校となりました。卒業式さえも中止となる学校もある中で、こうして式が挙行されたことに喜びを感じています。仲間と過ごす時間が減り、とまどいもありましたが、その分、大切な思い出がたくさん蘇り、改めて仲間の大切さに気付く機会となりました。

そう考えると、今回のような今までにない卒業式は、私たちに特別な一日となるに違いありません。

私たちがこの東輝中学校で見た初めての春の景色。大きな期待、そして緊張や不安もあつた入学式。小学校とは全く違う世界に飛び込み、新しい仲間や、様々な新しい環境に出会いました。その出会いの度に感じた新鮮な想いは、今でも心に残っています。

一年生になって初めての学校行事である野外活動。班ごとにカレーを作り、クラスみんなでおいしく食べるのができました。仲間と協力し成し遂げた感動、そしてその素晴らしい学校を学びました。

部活動も始まりました。先輩方の姿や実際の活動を通して、技術だけではなく礼儀も学び、みんなで一つの目標に向かう意義を肌で感じる事ができました。二年生になり後輩ができて、始めて先輩という立場になりました。今までの先輩方のような姿を後輩に見ることができるとかという不安は、とても大きかったです。しかし、そんな不安も仲間と協力することで拭いていく事ができました。時には辛く、くじけそうになった時もありました。そんな時にいつも寄り添ってくれた仲間。仲間と共に技術を磨き、戦い、喜びや悔しさを分かち合った二年半は、人生における大きな経験となり、かけがえのない思い出詰まった宝物になりました。

しかし、二年生になった私たちは学校生活での課題にも直面しました。自分のことしか考えられず、周りのことに気が配れない。時間にルーズになり、様々な場面が目立つようになり、そういった課題に代議員やクラスの班長が話し合い、「ドオオンキャンペーン」という取組を考え、積極的な声かけを始めました。初めは少ない人数による声かけでしたが、次第に協力する人たちが増え、たくさんの方が二分前着席や授業態度の改善を意識するようになりました。

そして三年生となった私たち。最上級生という言葉は想像以上に重いものでした。私たちがその重みを受け止め、様々なことに対して更に上を目指し、努力する覚悟を決めました。

そんな強い気持ちを胸に、修学旅行、東京へと向かいました。見たことのない高いビルなどの景色に驚きながらも、楽しい一生の思い出を作ることができました。また社会のルールの大切さを学ぶ機会ともなりました。そして仲間と昼夜を

共に過ごすことで見えてきた、新しい一面を知ることができました。

体育祭では三年生が全校を引っ張っていかねばならないという責任を強く感じました。実際、思うようにいかず、イライラを募らせることもありました。そんな時も支えになったのは、やはり仲間の協力を得た。それまでの中学校生活や修学旅行を通して身に付けた「仲間力」が私たちに体育祭を成功へと導きました。

文化祭では初めてのクラス劇に取り組みました。一人ひとりが役割を担い最高の作品を作るため努力しました。一人一躍が私たちのキーワードとなりました。取組が上手くいかず、壁にぶつかるともありませんでしたが、クラスの仲間と「絶対成功させる」という思いをぶつけあつて乗り越えられました。壁を乗り越えた私たちの劇は、どのクラスにもメッセージ性があり、納得のいく作品を作りあげることができました。演目は違いましたが、クラスそれぞれの劇の成功への頑張り、結果として学年全員での文化祭そのものの成功へと繋がりました。このように大きな文化祭を通り、「みんなでまとまること」や「成功すること」は決して楽な道ではありません。

そして中学校生活の最後の試験は、高校受験。今までに経験したことのないような不安やストレスが私たちの前に立ちました。自分の未熟さを痛感しました。目標は「進路実現」とみんなと同じなのに、「一人で戦っている」と思い込み、「何もかもうまくいかない」と投げやりになることもありました。これまで身に付けた真の仲間力を身にしみて学ぶ機会となりました。私たちが落ち込んでいたり悩んでいた時、側にいてくれたのは仲間をはじめ、家族、先生方、後輩、地域の方々でした。家族はこれまでの十五年間、私たちを一番支えてくれました。思わず出してしまう素顔のイライラやわがままを深い愛情で受け止めてくれました。毎朝お弁当を作ってく



れた、お父さん、お母さん、家族、本当にありがとう。嬉しいことがあつた時は自分のことのように喜び、悲しく辛いことがあつた時は側に居て支えてくれました。素直になれず、反抗することもありました。それでも変わらず接してくれた時、自分の過ちに気づき反省することができました。本当にありがとう。まだまだ未熟な私には、これから迷惑をかけることと思いますが、少しずつ大人に成長していきます。これからもよろしくお願ひします。先生方は私たちが道に迷った時や、受験でつまづいた時、私たちに励まし、正しい方向へ導いてくださいました。熱心に私たちの意見を聞いてくださったこと、一緒に日々を過ごし様々な行事を成功させてくださったこと、先生方のお陰でたくさんの方ができるようなりました。学校生活で苦楽を共にしてくださった先生方は、信頼できる私たちの心のよりどころでした。地域の方々には、出会う度に笑顔で挨拶をして、常に私たちを見守ってくださいました。部活動や学校行事を見に来ていただいたこともありました。本当に心強く、私たちのやる気にも繋がりました。私たちが本当に恵まれている、そう強く感じました。在校生の皆さんの優しさや一生懸命な姿には、度々元氣付けられ、勇気やパワーをもらいました。

そんな在校生の皆さんに伝えたいことがあります。学校を創っていくという道は楽ではありません。ですが、諦めず歩み続けることで必ず道は開けます。そんなみんなの学校を、私たちが大好きなこの東輝中学校を、活気が溢れ誰からも愛される学校に築き上げていってほしいと思います。

私たちはこれまでどんなに大きな壁のある道でも、強い絆で結ばれた235人の仲間と乗り越え、歩み続けてきました。これまで見た四度目の春の景色は、これまで当たり前であった景色ではなく、異なります。それぞれの道へと進み、新たな世界が広がるでしょう。常に私たちは前向き、歩み続けます。振り返りたくなる時も必ずあるかもしれませんが、それでも私たちは立ち止まりません。私たちに関わってくれた全ての人たちが私たちに信じてくれたように、次は私たちが自分自身を信じ、歩み続けます。歩くペースはそれぞれ違うかもしれませんが、それぞれが速く歩み続けることを心に誓い、前へ前へと歩み続けていきます。

最後にはなりましたが、こうして無事に卒業式を迎え、仲間と共に門出を迎えられたこと、そしてこれまで私たちの成長を願って関わってくれた全ての方々から感謝の気持ちを伝えたいと思います。「ありがとう」ございました。四度目の春の景色を迎えつつある今日、この学び多き東輝中学校を卒業したという誇りを胸に、それぞれの道を全力で歩み続けることを誓い、答辞とさせていただきます。

令和二年三月十三日
卒業生代表 上田 愛紗
答辞作成委員会 三年本部役員 代議員会

友情の5円玉キャンペーン

生徒会活動の一環として2月15日(土)に亀岡市8中学校生徒会合同募金活動「友情の5円玉キャンペーン」がスーパーマーケットの馬堀店の店頭で行われました。



新型コロナウイルスに係わる感染症対策について

引き続き、ご家庭での手洗いや咳エチケット、不要不急の外出を避ける等の感染症対策に努めていただきますとともに、日常の健康観察も行い、発熱等の風邪の症状がみられるときは、無理をせずに自宅で休養するようお願いいたします。また、

- ① 37.5度以上の発熱が4日以上続く場合
- ② 解熱剤を飲み続けなければならない場合
- ③ 強いだるさ(倦怠感)がある場合
- ④ 息苦しさ(呼吸困難)がある場合
- ⑤ 医療機関において新型コロナウイルスに感染していると診断された場合

*亀岡市教育委員会からの通達より
以上のような症状がみられる場合、「出席停止」となります。